

二二三三三番

降る雪の空に消ぬべく 恋ふれども 逢ふよし  
なしに 月そ経にける

二二三三四番

沫雪は千重に降りしけ 恋ひしくの 日長き我  
は見つつ偲はむ

二二三三五番

咲き出照る梅の下枝に 置く露の 消ぬべく妹  
に 恋ふるこのころ